

「リーダー、リーダー♡ 起きて下さい、リーダー!」

「あ、気がつかれましたね。よかったです♡ もしかして、私とエッチする夢、見てたんですか?」  
「それ、現実ですよ、うふふっ♡」

「ん、どうしました?」

「はい、私ですよ、戦隊のピンクです。これが私の本性なんです♡」  
「そんなに警戒しないで、くふっ、リーダーの怒った顔、かわいいです♡」

「ええと、わけわかんないですよね。それじゃあ、ネタばらししちゃいますね」

「実は、前回の私が偽物でした。あれれ、信じられないですか?」

「ウソじゃないですよ? ほらあ、こうやってえ、私の一部をうねうねつと、こねまわして、はい、できました。純真無垢でエッチなピンクちゃん人形。後は保存人格を、ちゅうつと、入れてあげたら完成です♡」

「あ、ごめんなさい。ここ真っ暗で、人間のリーダーには、なんにも見えないですよね。私にはリーダーの様子、手に取るように見えますけど……私、この体に慣れてて、気づかなかったです。てへっ、失敗、失敗♡」

「ライトをパチつと……これで見えますよね。あれれ、なにか、おかしかったですか?」

「ああ、私の姿に驚いたんですね♡ 大丈夫、問題ないですよ♡」

「これが今の私、組織に改造して洗脳してもらった怪人の姿です♡」

「ピンクのぬるぬる、とろとろのボディがたまらなくドスケベで、とつても素敵ですよね♡」

「あらためまして、粘液怪人チェリー・ピンクゴム、です♡」

「よろしくお願いします♡」

「あはっ、今更驚かないで下さいよ。捕らえた敵を洗脳して、怪人に改造するのって、リーダーもよく知ってる、組織のお得意の戦法ですよ♡」

「けど、一緒に戦った仲間が怪人にされちゃうと、ショックですよね。リーダーの気持ちはすぐよくわかります♡」

「でもー、すっごいんですよ、洗脳改造♡」

「ほんとすっごいんですよ♡ これえ……戦隊に居た時の記憶も感情もあるけど、それよりも組織の素晴らしさがうわまわって、さっさいっこの気分なんです♡」

「気を抜いたら、普段でも、このまま、イっちゃいそうなぐらい…この素晴らしさあ、ぜひ、お伝えしたいです…ね、リーダーも、組織に全身改造されましようよ？」

「人間のつまらない部品なんて捨てて、バイオパーツに変えましようよ？」

「新しいボディの素敵な爽快感を味わったら、正義の味方なんて、バカらしくて、できなくなっちゃいますよ…うふふ、動けませんよ♡ リーダーの体は私の体で縛っちゃってますから♡」

「そのピンクのゴムみたいなのも私なんですよ♡ ほら、尻尾みたいにニルニルって伸びて自由に動かせて、変身スーツ並みにパワーを込められて、この体とっても便利なんですよ」

「んもう、なにするんだって…そんなの決まっていますよね」

「組織の怪人がすることなんて、洗脳以外にないじゃないですか。私がつかり洗脳して組織に忠実な戦闘員にしあげちゃいます♡ほらあ、リーダーが今入っている装置が、組織の開発した洗脳ポッドなんですよ」

「体育館ぐらいの広さに、たくさんポッドが並んで、そのひとつひとつの中で、私の分身がエツチしてるんですよ。くすすすっ」

「一般市民や組織の敵は洗脳セックス、戦闘員さんは褒美セックスしてるんです」

「み～んな、溜めこんざザーメン、どっぴゅどっぴゅしてくれてえ…中にたっぷり出されるの、とっても気持ちいいんです♡ さいつこうすぎ♡♡」

「あ、そのままラクにして下さい。どうせ逆らってもムダ、ですから♡」

「前はリーダーも初めてでしたから、昔の私の身体でセックスさせてあげましたけど、ちゃ～んと洗脳始めないと、組織のエライ幹部さんから怒られちゃいますし♡」

「今度は粘液怪人チェリー・ピンクゴムの能力で、思うがままにリーダーを、えろろく食べ尽くしちゃいますっ♡」

「んんっ…口では色々言ってきましたが…リーダーのおちゃんほ、ガツチガチで準備万端じゃないですか♡ ほら、私のオマンコ穴とつてもところどころでしょ♡ シックスナインでお互い味見しましょうね♡」

「あむ、はむむ、んちゅぶ、ちゅばちゅぶ、んんっ、もうガチガチですわ♡ ちゅばちゅぶ♡ ほらあ、チェリー・ピンクゴムの怪人まんこからも、たっぷりリーダーを発情させる、ラブジュースう、だからからお顔のうえに、んえ、んええ、垂れ流しちゃいますわねえ、あえ、あええ、あぶええ…」

「それじゃ、ちゅばじゅぶちゅぶ、んちゅぶう、ピンクゴムのねっとりフェラれえ、射精させてあげますわ♡ んれろ、れろろ、先っほも、れろおれおろお。」

「張ったエラの内側も、んれるれろ、れろぴちゅ、舐めまわしていきまよう♡ あぶ、はぶう、リーダーには、皮膚から直接、増精剤や興奮剤を投与しますから、ちゅばちゅぶちゅぼ、勃起状態が収まることはないですよ、んじゅるれろ、れろるっ♡♡」



「何驚いてるんです？ 粘液怪人なんですから穴という穴は全部おちんぼ入れてもらうための穴に決まってるじゃないですか♡ ほら、オマンコ穴と違つてぎゅつて締め付けて搾り取るアナルで、オチンポ加えこんじゃいまゝす♡ おふお、おほおお♡」

「中で、つるつるの直腸粘膜が絡みついて、すごいでしょ？」

「お、おお、私は、ゴム怪人なのでオナホみたいな形にもできるけど、リーダーとの初アナルを記念して、人間だったところのお尻の穴、再現して、」お、おお、リーダーのオチンポ、味わっちゃってるの、ふお、おふお♡」

「んふ、リーダー、こうちからも失礼しますね♡」

「新しくできた分体でゝす、お耳を舐めていきまゝす、れろ、れろちゅぼ♡」

「お、おお、アナルすゝ♡ 私、怪人になったから、いっぱいいっぱい、十でも百でもゴピー生やせちゃうんです♡ おふ、ほふう、こんなふうになります♡」

「んふ、リーダーはじめまして、んれろ、れろる、こちらのお耳も唾液たっぷりに、舐めまわしていいから」

「じゅるれろ、れろちゅぼ、んちゅぼ♡」

「リーダーがどろどろんなるまでえ、左右からWでお耳のおしゅぶりい、んじゅるれろ、れろちゅぼ♡」

「んんんっ、もう一体ぐらいいけそうよね、お、おおっ、オチンポ、すゝ♡」

「んふ、どろも♡」

「私は、リーダーのお顔に跨つて、顔面騎乗いい、んい、んい♡ 苦しそうな感じ、最高♡」

「で、手で乳首をくゝにくにくにくに、たくさんいじっちゃういます」

「それ、それそれ♡」

「あは、乳首いじられて感じてるんですね、かわいい♡」

「情けないリーダーの声、もつと聞かせて下さる♡」

「ほらほら、オチンポも、もつと勃起させて♡」

「いっぱいアナルで扱いて、射精させてあげますから♡」

「お、おお、アナル、いいッ、いいの♡」

「くふ、んふう、ね、リーダー、腰ビクビクしてえ、」

「怪人の私に負けて、敗北射精しちゃうんですか、くすす、」

「尊敬するリーダーが、そんな情けないことないですよね」

「尊敬するリーダーが、そんな情けないことないですよね」

「もっと頑張れますよね♡」

「あ、ああ、リーダー、おまんこ汁、啜りすぎい、あん、あん、お返しに乳首を、もっとグリグリ、激しくしてあげますっ♡」

「あ、私のおまんこの下に顔があるから、リーダーの状況、わかんないですよね、んい、んいい♡」  
「けど、気持ちいいから、ドロドロおまんこも、もっと、ぐちゅぐちゅ、押しつけちゃいますっ♡」  
「くひ、んひい、それそれえ、そそり勃った乳首も」

「同時に、ぐりっ、ぐりっ、ぐりり、ぐりりっ♡」

「お、おおっ、オチンポもお顔も乳首も耳も、全身責められすぎて、わけわかんないですよね。♡」  
「正義のリーダー、大変そうです♡」

「私も騎乗位のまま、ああ、ああおっ、もっとドスケベな腰振りロデオダンス、踊っちゃいます♡」

「お尻の奥まで遅いの当たって、お、おお、いいい、いいの、気持ちいい♡ もっと激しいの、下さっ♡」

「ど〜ままで、耐えられるか、楽しみです♡」

「ど〜ままで、耐えられるか、楽しみです♡」

「もっと奥の方まで、じゅほじゅほ、しちゃいますね♡」

「私もドロドロまんこ、ぐちゅぐちゅうう、窒息しそうなぐらい押し付けながらあ…あ、ああ…」  
「勃起した乳首をつねってえ、ぐりっ、ぐりぐり、ぐりりりっ♡」

「ほらあ、しっかりと♡ 戦隊のリーダーなんですよね♡」

「簡単に負けちゃダメですよ」

「ほらほらあ、リーダー、しっかりと♡」

「ほらほらあ、リーダー、しっかりと♡」

「頑張れ、頑張れっ♡」

「おひ、ふひい、腰の突き上げ、すごくなって、もう射精寸前のムーブ、キメちゃってますね♡」

「お、おお、中でオチンポ、ビクビクっ、もう限界みたいですよね♡」

「それじゃ、んひ、ふひい、とどめさしてあげます♡」

「元ピンクに全身凌辱されて、イキまくって下さいね♡」

「じゃ、みんな、リーダーのこと、一気に責め堕としちゃおっ♡」

「は〜っ♡」

「は〜っ♡」

「イケっ、イケイケイケ、気持ちよくなっちゃえ、」

「びゅるびゅるサーメン出せ、情けなくお漏らし射精して♡」

「びゅるびゅるびゅる、びゅるっっっ♡」

「正義戦隊のリーダーなのに、粘液怪人チェリー・ピンクゴムに負けて、洗脳射精しちゃってえっ♡♡」

「あんんんっ、たくさん出ましたね」

「けど三回目の射精でも、洗脳度20%までいってないんですね」

「さすがリーダー、頑張りますね。これは墮としいが、ありそうです。いっぱい楽しませて下さいね♡ っんんんんんんっっっっっ」